

演題名	特別養護老人ホームにおける シーティングの実施率の向上		
施設名	特別養護老人ホーム ケアポート板橋	(ふりがな) 発表者(職種)	やぎ じゅんこ 八木 淳子 (介護福祉士)
(ふりがな) チーム名	ケアシット		
分類	①診断・治療・ケアの質の向上をめざすもの		
取り組み種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	重度化させない為に、最も重要なことは、「離床する事」です。しかし、ただ単に離床して頂くだけでは、重度化は防げません。離床して頂いている際、正しい姿勢＝「シーティング」を行う事が大切です。「正しくポジショニング」を行う事に加え「正しくシーティング」を行なう事で、重度化予防できます。昨年度の活動を更に良くする為に、今回のテーマに取組む事としました。		
改善の指標と その目標値	(指標) シーティング対象者44人に対して(11時から13時)正しくシーティングを行う実施率を (根拠) シーティングは毎日継続的に正しく行うことで効果があり、意味があるものとなる。(田中義行PTより) 昼食時、正しい姿勢「シーティング」で召し上がって頂く事で、自立支援、誤嚥防止等に繋がる。 人員配置が多い時間は日中であるため、その時間に実施することで100%実施できるのではないかと考えた。		
実施した対策	①勉強会用動画作成 ②各フロアにシーティング指導者の配置 ③昨年のポジショニング動画の再視聴 ④マニュアル作成 ⑤介護用具の作成 ⑥シーティング用タオル補充を業務に組み込む ⑦シーティング用タオルを各階均等に配置する為の仕組み作り		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) シーティング対象者44人に対してシーティング実施率7% (実施後) シーティング対象者44人に対してシーティング実施率100%		
歯止めと 標準化	標準化1:シーティングマニュアルを、シーティング技術を統一する為、教育委員が半年に一度見直す 教育:シーティング方法を、正しくシーリングを行う為、教育委員が半年に一度勉強会を行う 管理:シーティング実施率を、実施率を低下させない為に、リーダーが3か月に一度チェックする		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 永盛 敬太 介護福祉士 2 吉田 紡 介護福祉士 3 飯田 貴範 介護福祉士 4 樋浦 春美 介護福祉士 5 佐山 いずみ 介護福祉士 6 岡田 直也 介護福祉士 7 伊藤 智恵美 介護福祉士 8 八木 淳子 介護福祉士 9 綿島 英子 介護支援専門員 10 中野 美幸 看護師
活動の場 ※複数選択可	④その他		
活動期間	令和3年4月 ~ 12月		
リーダー名 (職種)	岡田 直也 (介護福祉士)		
活動回数	14		回

【テーマ選定・背景】

昨年度、特養では重度化予防の一つである「ホジシング」をテーマとして活動を行いました。厚生労働省は重度化させない為に、10時間以上の離床を推奨しております。しかし、ただ単に離床して頂くだけでは、重度化は防げません。離床して頂いている際、正しい姿勢＝「シーティング」を行う事が大切です。「正しくホジシング」を行う事に加え「正しくシーティング」を行なう事で、重度化予防できます。昨年度の活動を更に良くする為にも、今回のテーマに取組む事としました。

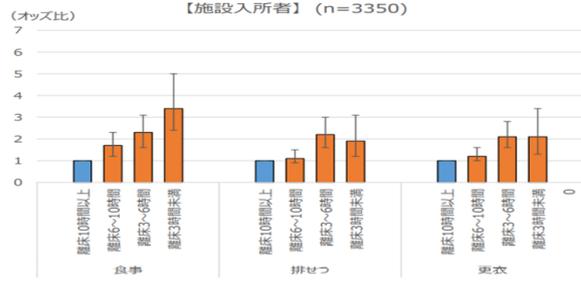
テーマ選定（マトリックス図）

なぜ	何を	誰が	いつまで												どう	前回の反省と取り組み
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月				
真実を調べる	現状把握	岡田	計画			実施						7月1日～8月1日	クラブ	統計的にデータ化しやすい情報を集める		
要因をみつける	要因解析	永盛	計画			実施						8月10日～9月1日	特性要因図	孫骨までお振り下げていく		
どうしたら良いか	対策	佐山 江口	計画			実施						9月1日～11月14日	チェックシート	対策の実施期間と現状把握の期間が同じになる様時間を確保する		
持続できるか	効果確認	種浦	計画			実施						11月14日～11月28日	クラブ	継続的に効果の確認を行っていく		
標準化	管理の定着	飯田 吉田	計画			実施						11月14日～11月28日	チェックシート	継続性をもたせたい為の仕組み作りの構築		
	反省と今後の取り組み	神島	計画			実施						11月14日～11月28日	フレームワーク等	前回の反省を再確認して活かしていく		

評価点 ○5点 △3点 ×1点

テーマ選定の背景

要介護高齢者における離床時間と日常生活動作能力の障害との関連



【現状把握】

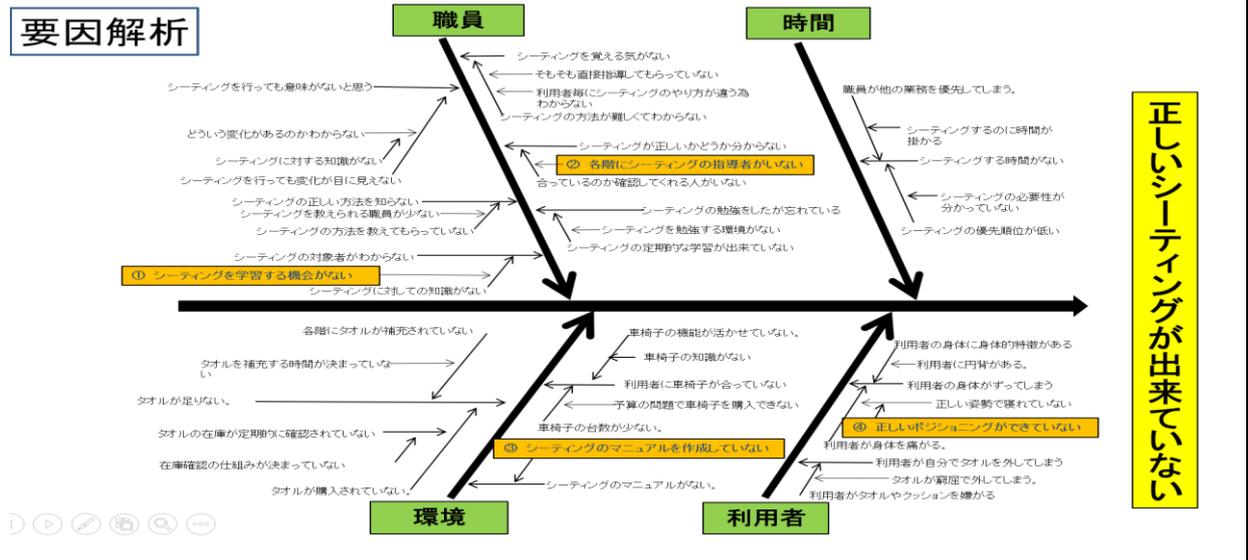
目的	方法	内容	結果																			
①シーティングの方法を知っている職員の人数を把握する為	職員51名にアンケート調査	Q1 シーティングの方法を知っているか？	知っている 86% 知らない 14%																			
②勤続年数により教育の有無に差があるか把握する為		Q2 人に教える事ができるか	教えられる 14% 教えられない 86%																			
③シーティングに対する知識があるか確認する為	筆記テスト	拘縮、シーティングに関する基礎的なテスト	60点満点中全職員が30点以下																			
④対象者を明確化、ご利用者の人数を把握する為	フロア毎に、全利用者者のADL調査	シーティングを行う対象者＝座位保持が困難なご利用者の人数を調査した	<table border="1"> <tr> <th>全体</th> <th>対象者</th> <th>44人</th> <th>非対象者</th> <th>62人</th> </tr> <tr> <td>2階</td> <td rowspan="4">対象者</td> <td>4人</td> <td rowspan="4">非対象者</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>3階</td> <td>12人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>4階</td> <td>11人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>5階</td> <td>17人</td> <td>15人</td> </tr> </table>	全体	対象者	44人	非対象者	62人	2階	対象者	4人	非対象者	11人	3階	12人	18人	4階	11人	18人	5階	17人	15人
全体	対象者	44人	非対象者	62人																		
2階	対象者	4人	非対象者	11人																		
3階		12人		18人																		
4階		11人		18人																		
5階		17人		15人																		
⑤现阶段の正しいシーティングを行っている実施率を把握する為	チェックリストに沿ってチェックした	<table border="1"> <tr> <th>正しいシーティング実施率</th> <th>全体</th> <th>2階</th> <th>3階</th> <th>4階</th> <th>5階</th> </tr> <tr> <td>実施率</td> <td>74%</td> <td>78%</td> <td>67%</td> <td>81%</td> <td>69%</td> </tr> <tr> <td>正しい実施率</td> <td>7%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>27%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	正しいシーティング実施率	全体	2階	3階	4階	5階	実施率	74%	78%	67%	81%	69%	正しい実施率	7%	0%	0%	27%	0%		
正しいシーティング実施率	全体	2階	3階	4階	5階																	
実施率	74%	78%	67%	81%	69%																	
正しい実施率	7%	0%	0%	27%	0%																	

【目標設定】

何を	シーティング対象者44人に対してに(11時から13時)正しくシーティングを行う実施率を		
いつまでに	11月末までに	どうする	7%⇒100%にする
根拠	シーティングは毎日継続的に正しく行うことで効果があり、意味があるものとなる。(田中義行PTより) 昼食時、正しい姿勢「シーティング」で召し上がって頂く事で、自立支援、誤嚥防止等に繋がる。人員配置が多い時間は日中であるため、その時間に実施することで、100%実施できるのではないかと考えた。		
チェック方法	チェック表を基に、ランダムサンプリングにて測定。		

【要因解析】

要因解析



正しいシーティングが出来ていない

【重要要因検証】

重要要因	検証、結果	判定
① シーティングを学習する機会が無い	シーティングに関する勉強会は今年の新人職員しか行っていなかった。	○
② 各階にシーティング指導者がいない	シーティングの指導を行える職員は4階に一人しかいなかった	○
③ シーティングのマニュアルがない	どの階にも、シーティングのマニュアルは存在せず	○
④ 正しいポジショニングが出来ていない	対象者44名中正しいポジショニングを行っていたのは実施率が高い日で15人(34%)だった	○

【対策の立案】

【対策の実施】

重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	四次対策	効果	コスト	時間	採
① シーティングを学習する機会がない	シーティングを学習する機会を作る	シーティングの勉強会を開催する	勉強会の準備を行う	①勉強会用の動画を作成する	○	○	△	13
② 各フロアにシーティングの指導者がいない	各階にシーティングの指導者を配置する	各階で指導する職員を選定する	②各階のリーダーに教育委員長がシーティングの指導を行う		○	○	△	13
③ 各フロアにシーティングのマニュアルがない	各フロアにシーティングのマニュアルがある	③シーティングのマニュアルを作成する			○	△	△	11
④ 正しいポジショニングが出来ていない	正しいポジショニングができる	ポジショニングを理解する	教育作成した動画をみてポジショニングについて学ぶ	④合格するまで演技テストを行う	○	○	△	13

11点以上を採用とした為、全て採用

	誰が	いつ	何を	どこで	どうする
①	TQM委員	10月末までに	勉強会動画を	施設内で	作成する
②	教育委員長	10月末までに	各リーダーを	施設内で	指導する
③	教育委員長	10月末までに	マニュアルを	会議室	作成
④	介護職員	10月末までに	ポジショニングを	施設内で	見てもらう

- ①勉強会用の動画を作成する
- ②各階のリーダーにシーティングの指導を行う
- ③シーティングのマニュアルを作成する
- ④合格するまで演技テストを行う

【対策①】動画を作成 全職員視聴

【対策②】各階にシーティング指導者を配置



【対策③】動画を作成 全職員視聴

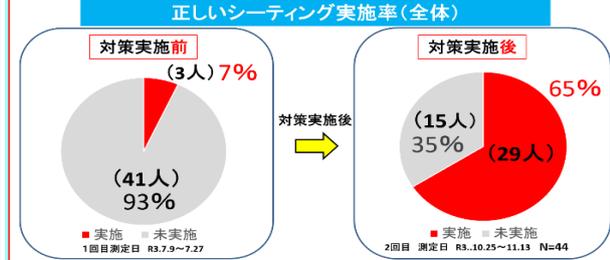
【対策④】動画を作成 全職員視聴

マニュアルの作成

ポジショニング技術テストの実施



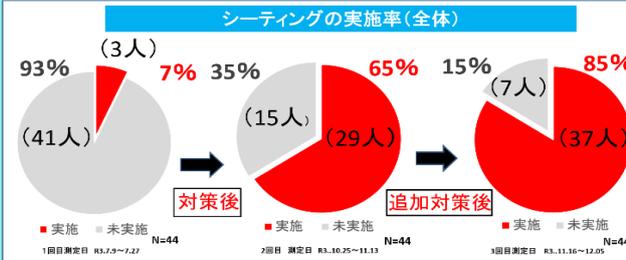
【中間点検】



正しいシーティング実施率は7% > 65%であった。

対策後、シーティング実施率は7% → 65% 目標に到達せず
再度、要因解析、検証、対策立案する

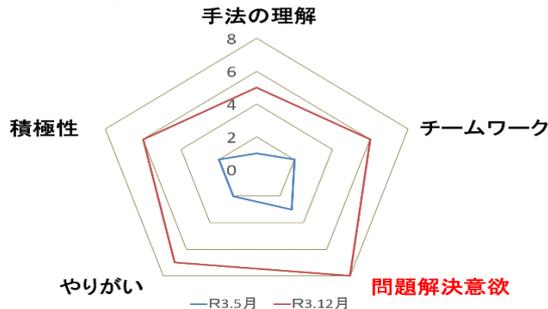
【効果の確認(追加対策後)】



正しいシーティング実施率は85%であった。

追加対策後、シーティング実施率は85%

【無形効果】



QC的な考えで物事を考える事が出来るようになる事で、TQM手法の理解が深まり、問題解決意欲が増した

【反省と今後の進め方】

	手順	良かった点	悪かった点	今後の進め方
P	テーマの選定	前回のテーマと関連したテーマにすることができた	テーマ選定に時間が掛かり過ぎた	今後でも利用者の為に改善できるテーマを選定する
	現状把握 目標の設定	データ取りの目的を明確化しデータを取る事ができた	必要ではないデータも取ってしまい時間を要した	データ取りの選定に要する時間を短縮できるようにする
	活動計画作成	役割を明確にして行う事ができた	計画と実施に差が出てしまった	計画通り実行できるようにしていく
D	要因の解析	チームで意見を出し合って解析できた	何度もやり直すことで、時間を要してしまった	より深く掘り下げて解析を行っていく
C	対策の検討と実施	コロナ禍でも行う事ができた	重点思考にて対策を実施できていない	よりアイデアに富んだ対策を実施する
	効果の確認	殆ど行えていない状態から80%以上実施率が上がった	実施率が目標値に到達しなかった	目標達成の為、PDCAを繰り返していく
A	標準化と管理の定着	マニュアル動画を作成することで繰り返し学べる環境を整えることができた	定着に関して定期的にチェックを行っていない	業務にシーティングの確認を組み込むことで定着化を図る

【要因解析】

重要要因	検証	結果	判定
⑤ 足のシーティングが難しい	対策実施の結果	出来なかった要因の中で両足底が接地出来ていないという要因が79%を占めていた 3日間のランダムサンプリングを行った結果、2階と5階が半数以上タオルが足りていなかった	○
⑥ 各居室にタオルが補充されていない	目標設定している時間の開始時(11時)に各ご利用者居室のタオルの枚数を検証		○

- ⑤足のシーティングが難しい➡真の要因
- ⑥各階にタオルが補充されていない➡真の要因
- 【追加対策】
- ⑤ご利用者毎に足台を作成する
- ⑥タオルを補充する時間を業務に組み込む
- ⑦タオルを各階、均等に補充できる
- 【波及効果】

シーティング用品(足台)の費用削減

■必要な足台の台数17台
1台当たり7,840円×17台 =127,160円

市販の足台

手作りの足台

■手作りにて作成 作製費=ほぼ0円

知恵と工夫で¥127,160の経費削減

足台を手作りにて作成
127,160円の経費削減

【標準化と管理の定着】

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どのように
標準化1	シーティングマニュアルを	シーティング技術を統一する為	教育委員	半年に1回	会議室	見直す
教育	シーティング方法を	正しくシーティングを行う為	教育委員	半年に1回(4月・10月)	会議室	勉強会を行う
管理	シーティング実施率を	実施率が低下しない様に	各階リーダー	3ヶ月に1回	各フロア	ランダムチェックする